

令和8年度 高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 令和8年6月24日(水) 午後3時30分～4時50分

II 場所 高岡市役所8階 803会議室

III 出席者 高岡市長 出町 譲
高岡市教育委員会
教育長 杉山 智充
教育委員 長尾 順子
教育委員 成瀬 隆倫
教育委員 藤重 歩
教育委員 永岩 聡

事務局関係

総務部

総務課長 津幡 佳成

総務課副課長 野口 広大

教育委員会事務局

教育次長 表野 勝之

教育次長・学校教育課長 津田 久

参与 鳥内 禎久

教育総務課長 芹山 奈緒樹

生涯学習・スポーツ課長 高山 篤志

文化財保護活用課長 釣 和洋

教育総務課副課長 野吾 達也

学校教育課主幹 高橋 ひとみ

IV 傍聴者 5名

V 協議の概要

1 開会

・市長あいさつ

2 項目

【講演】

教育分野をめぐる動向について

講師 富山大学学長特命補佐(高岡市政策アドバイザー) 林 誠一 氏

【協議事項】

高岡市教育大綱の方向性について

○発言要旨

高岡市教育大綱の方向性について

【永岩委員】

- ・講演の中で、地域ぐるみの教育として、『家庭で育て、学校で鍛え、地域で磨く』とあったが、「地域で磨く」とはどのような概念なのか。

【林政策アドバイザー】

- ・子どもたちは、学校教育だけでは、社会のことをわかっていない荒削りの状態である。社会生活との交わりの中で、知っていくことになるが、「14歳の挑戦」もその取組の一つである。
- ・小、中、高校の先には、最後まで社会とつながっていくことになるため、地域のみならず子どもたちを育てていく、ということである。

【永岩委員】

- ・企業の社員育成についても、これまでは仕事だけを教えてきたが、これからは人間として教育することが重要。金融の世界でも、ここ2、3年をどう動くかとされており、大転換の時期である。

【長尾委員】

- ・なりたい職に就こうと一心に勉強しても、将来、その職業はAIによってなくなっているかもしれない。
- ・5年後、10年後、子どもたちの幸せのためには、AIを使いこなすことができないといけない。できれば最先端のものを使わせてあげることで、子どもが伸びるのではないかと思う。
- ・AIの使用を弊害だと思っていたら、遅れが生じる恐れがある。
- ・学校で築いていく大事なことの一つは倫理観であり、考え抜く哲学である。だからこそ、探究活動において答えのないところを考え抜く力を育てることが求められる。
- ・また、起業を目指す子どもたちが増えてくると、企業との結びつきが大事である。
- ・根底にあるのは心と体力と仲間であり、どのような時代でもこれらを大事にできる高岡の核となるような教育が重要である。

【林政策アドバイザー】

- ・AIによってなくなる仕事がある一方で、世界の人口は増え続けていく。そのため、今はない仕事も増えていくものと想定される。
- ・先が見えない時代で生きていく子どもたちだからこそ、どのような教育が必要か。覚えるだけじゃなく、考えて、自分だったらどう動くか、どう発言するかという教育を進めていかなければならない。
- ・大人は子どもたちに、今後は人口減少で高齢者が増加し、子どもたちが社会を支えていかなければならないといった言い方をしてはいけない。子どもたちには明るい未来があり、そこに夢があると言ってあげるべき。
- ・今の子どもたちは、自分のやりたいことをしたい、それができるところに住みたいと考えるので、そんな未来を作ってあげられる環境が必要である。

- ・生成 AI も大事である。ただし、生成 AI と共存していく子どもたちにどのような教育ができるのかを深く考える必要がある。

【成瀬委員】

- ・個性を伸ばす教育と言われて何十年も経過しているが、今の世の中はどうか。自分の価値観と異なる人を平気で攻撃する。インターネットは特にそうである。
- ・他人の個性を認める教育をしなければ、本来の意味での個性を伸ばす教育にはならない。他人を攻撃する人たちは、やはり幸福感に欠けるという点から、ウェルビーイングを考えていかなければならない。
- ・個人のアイデンティティが確立してくると、ウェルビーイングの向上にもつながるものとする。

【藤重委員】

- ・AI、情報活用は大切であるが、子どもたちには自然や体験による学びを取り入れてほしいと考える。
- ・今の子どもたちは情報を取るのがすごく上手である。そして聞いた情報を本当だと信じる子どもが大半だと思う。
- ・そうした子どもたちが得る情報は、体験や自然の中から学び、感じることも大切である。次の教育大綱にも盛り込んでほしい。
- ・また、まちづくりを進めるときは、子どもたちが主役になってほしい。
- ・地域では大人の声が大きくなりがちで、子どもたちもその大人の声を聞いて、判断する。しかし、子どもたちを支える、磨いていく地域の大人が、古い考えのままでは意味がない。
- ・これは生涯教育にもつながることで、今の時代を考える大人の学び直しなどについても取り入れていただければと思う。

【林政策アドバイザー】

- ・体験から生まれるものはたくさんある。人に会って話をした、インタビューをした、現地で様々な情報を得たなど、そこにはインターネットから得られる情報ばかりではない。
- ・本物に触れる体験はますます重要になり、そこから得られる情報をうまく活用する。
- ・地域の大人たちが子どもたちを磨いていくことについて、改革を妨げるのは大人の意識であり、そこには古臭く感じられるような考えもある。その点も触れていかなければならないと考える。

【長尾委員】

- ・個性を重視することは大切で、子どもたちがどこでもいいので、一人残らず居場所があり、高岡に生まれてよかったと思ってほしい。
- ・個性がある子どもたちに沿った枠組みで対応し、限界まで柔軟に対応できる学校になったとき、学校教育だけではなく、他に何ができるかということが課題になるのではないか。

【市長】

- ・アップル社が誕生して 50 年。同社の「Think Different (シンク・ディファレント)」

という広告では、ルーサー・キング・ジュニア、マリア・カラスなど、異端児と言われる彼らを攻撃する人は多かったが、彼らを見做すことはできなかった。そして時代が変わった、というストーリーをスティーブジョブズ自らがナレーターとして伝えている。

- ・私は、そんな教育を高岡でやっていきたいという強い思いがある。
- ・私が記者になったとき、日本企業の株式の時価総額は世界の上位8社のうち6社から7社を占めていた。今では全くない。
- ・1人の天才がいることで、おもしろいこと、ワクワクすることが生まれ、それがまちづくりにもつながるのではないかと思っている。
- ・文部科学省の講義を受けた際、子どもたちには得意なことをさせることを伺った。苦手な教科を克服すると学んだ自分の時代とは変わったのだと感じた。
- ・こうした時代の変化に国も目覚めてきている。だからこそ高岡も、教育委員会も変わってほしいと考えている。

【教育長】

- ・子どもたちの教育をどうしていくか、教育委員会の責任は重い。本日の講演、委員の皆さんの意見を伺って改めて認識した。
- ・次期教育大綱を取りまとめていくに当たっての、キーワードは3つ。
- ・1つ目は、「自ら磨く」で、これは自分自身を大切にし、自分が自分を認めていくということである。おこがましいとは思いますが、そのために子どもたちの力をつけてあげなくてはならない。子どもたちに伴走して、子どもたちに教えられながら、学んでいく。これが探究の本質と考えている。
- ・つまりは「探究」がキーワードとして、学習の中心になるというもの。探究という学びの中で、学校生活での教師の指導観や教科指導において、可視化し、形にしていく学びを、探究的な学びとして高岡では整理していきたい。
- ・2つ目は「AI」である。AIを活用していくことはとても大切だが、その中で人を大切に、自分も大切に、人を育てるということを不変のこととしていきたい。
- ・個性を認めることは、大人でも難しい。子どもたちは認めているとは言い切れないかもしれないが、受け入れてはいる。相手を知らないと、認めることはできない。学びの中で相手のことをよく知る、相手を知ることとは自分を知ることにもなる。これは教育の根本に関わり、全ての項目における土台となることだと思う。
- ・3つ目は「学び続ける」ことである。学校教育で終わらず、学び続けるにはどうすれば良いか。
- ・自分で学び、分からなくなり、そこからまた学ぼうという気持ちが芽生える。学校での集団生活、答えのない答えをみんなで探す活動など、学校教育の中でしかできない経験と一生学び続けることをどのようにつなげていくか考えていきたい。
- ・高岡では、子どもだけでなく、大人までずっと学び続けることができる。このことをどのように打ち出していくか検討していきたい。

【林政策アドバイザー】

- ・子どもは小、中学校だけではない。
- ・18歳で成人になると、選挙権も付与され、クレジットカードも作れ、自分でアパートも借りられる。
- ・今、学校現場は失敗を恐れる傾向にある。危ないから、子どもにはさせないという意識が強い。子どもに失敗させないように守ろうとする。これは保護者、大人の意識にもあるが、失敗して人間は育つものである。
- ・AIを使ったら、おそらくトラブルは生じる。それを進めていくには大人の覚悟と理解が必要である。
- ・どんな子どもでも褒められたい、認められたいと思っている。
- ・普段は見えないが、隠れた能力を見つけてあげようとするのが教育のプロであり、子どもに「見ている」というメッセージを送ってあげることが本当の教育ではないかと思う。
- ・高校になると単位がとれないと留年し、大学ではもっと厳しい。これから先には、そういった厳しさもあるということ子どもたちに伝えていかなければならない。

【永岩委員】

- ・学校の先生と企業経営者とのつながりが無い。
- ・もっと活発に意見交換をしていかないと、企業と子どもたちとのつながりが途切れていく。

【教育長】

- ・企業との意見交換を通じて、子どもたちの社会で必要となる力が何か、学校側も知らなくてはならない。

【市長】

- ・探究の学びを進めようということであれば、企業の課題など、積極的に調査する必要があるのではないか。
- ・現状について紹介があれば教示いただきたい。

【高橋主幹】

- ・探究的な学びの推進については、各学校から推進委員を募り、推進委員会を設け、ミドルリーダー、若い世代の先生方にも参加いただき、柔らかいアイデアや意見交換をし、学校の実情に応じて進めているところ。
- ・昨年度は高校の探究の発表を各学校に見ていただき、ゴールの形を先生方に認識していただいた。
- ・ゼロからのスタートではなく、今ある教育活動をベースにして研究を進めているところで、少しずつ準備を重ねている。

【林政策アドバイザー】

- ・教育改革は大事だと言われるが、すぐに忘れられてしまう。
- ・誰のためにやっているかという点、これから生きる子どもたちのためである。
- ・教育大綱も、教育現場が迷ったときに見返すことができるようなものとして、作成することが大切である。

【藤重委員】

- ・子どもたちの未来を考えると、高岡に縛ってはいけないと思いながら、関係人口など、何かしら高岡に関わって、戻ってほしいという気持ちがある
- ・基本理念にも、「高岡」というキーワードを盛り込めば、心に響かないか。
- ・高岡に誇りを持ち、高岡の魅力を全国、世界に広げていくことも盛り込んでいただければと思う。

【市長】

- ・本日の意見、キーワード等を踏まえ、教育大綱の策定を進めていきたい。
- ・将来のまちづくりに直結する大事なことを改めて認識することができた。
- ・教育を受けるなら高岡、教育移住にもつながるようなまちづくりをしたい。
- ・今後も未来志向でがんばってまいりたい。